

## 研究と研修の新たな発展を目指して

コロナウイルス感染拡大にともない、社会構造が急速に変化しています。教育を取り巻く環境が大きく変化している中で、学習指導要領の改訂やタブレット端末1人1台環境整備によるGIGAスクールの進展など、学校や教員には、これまでにない意識改革が求められています。

このような中、本研究所では学習指導要領改訂にともなう学習評価の充実、キーコンピテンシーであるAgencyの育成、教育相談におけるポジティブ教育の推進など研究と研修の新たな発展を目指した取り組みを進めてきました。昨年度からはタブレット端末活用プロジェクトチームを創設し、ICTの効果的な活用に関する研究、オンライン研修の効果検証なども行っています。時代に合わせた研究や研修を行っていくことが、学校や教員に寄り添うサポート機関としての使命だと考えるからです。

本紀要は、教職研修・教科研究・教育相談の3センターと先端教育研究センター・サイエンスラボ・教育博物館のそれぞれの研究成果と業務成果について報告するものです。今年度の成果の一端をご覧いただければ幸いです。

今年度は最先端のご研究に取り組まれている4名の先生方に特別研究員にご就任いただき、ICT活用、読解力向上策、理科教育、教育相談各分野の研究に関する助言・指導をお願いするとともに、講演会や公開講座など実践的な活動にもご尽力いただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。なお、本紀要では、ICT活用については都留文科大学教授 野中潤氏、読解力向上策についてはNTTコミュニケーション科学基礎研究所 藤田早苗氏にご寄稿いただいております。

福井県教育総合研究所は、来年度以降も、教員研修システムの確立、研究機能の強化、教育支援・教育相談体制の充実、教育博物館の発展などに取り組んでまいりたいと考えています。この紀要についても、皆様からのご意見をいただければ幸いです。

福井県教育総合研究所 所長 北川裕之